様式３

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="3">相模原市立図書館協議会</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="3">図書館　電話０４２－７５４－３６０４（直通）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">令和５年２月２日（木）　１８時３０分～２０時１０分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">相模原市立図書館　２階　視聴覚室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">９人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">２人（生涯学習課総括副主幹、他１名）</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">８人（図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他５名）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　□不可　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>１人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">議　題</td><td colspan="3">１　報告事項
（１）次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり事業について

２　議題
（１）図書館事業評価について

３　その他</td></tr>
</table>

議　事　の　要　旨

1　報告事項

（1）次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり事業について

資料１に基づき、生涯学習課から説明を行った。

（遠藤委員）ビジョン策定の基本的な考え方で、市民意見を踏まえたビジョン策定、民間提案の活用､将来にわたる市の財政負担の軽減の３点が示されている。今後この考えで進めていく中で、色々と考える中では相反する意見等も出てくることがあると思うが、例えば揉めてしまった場合にどの意見を市は一番重視して進めていくのか。また、本事業の参考となるような、同様の形態の公園、施設があれば教えてほしい。

（生涯学習課）市民の意見を聞いたり、民間の意見を聞いたりと色々な側面から検討する中で揉めた場合の対応に関してだが、まずは揉めないように進めていきたいと考えている。ただし、その中でそれぞれ色々な意見があるので、その点については市として総合的なところを見ながら、上手く調整して進めていきたい。また、参考となる公園、施設に関してだが、施設では規模は異なってくるが、大和市のシリウス、武蔵野市の武蔵野プレイスがあり、我々としてもあの様な施設にできたら良いと考えている。

（遠藤委員）参考となる施設があれば、どの様な施設になるのかイメージをしたり、比べたりできると思いお聞きした。

（大谷会長）市民検討会では、板橋区立中央図書館も参考施設として挙がっていたかと思う。ここは公園の中に図書館が建っているという形態で、私も見に行ったことがあり、1 階にはカフェ・ド・クリエが入っていたり、ボローニャ市との友好関係でボローニャ絵本館というものがあったりで、なかなか見ていて面白い所である。

（金子委員）その図書館は、民間のカフェが入っているということか。

（大谷会長）そうである。

（金子委員）淵野辺の新施設には、そういった民間施設は入る予定はあるのか。

（生涯学習課）民間の施設については、来年度に民間活力導入可能性調査を行い、参入の意向を確認する中で、もし手が挙がるようであれば前向きに検討していく。

（金子委員）その方がテナント料も入るし、良いと思う。

（生涯学習課）我々としてもやりたいと思っているが、後はやっていただく事業者側の考えの問題もある。

（金子委員）駅からも近いし、手を挙げる事業者はいるのではないか。

（遠藤委員）海老名市では TSUTAYA が入っている。

（高柳副会長）令和５年度に、民間活力導入可能性調査、大規模事業評価というものが予定されているが、これはどういうものか。我々協議会委員も図書館

事業評価を行っているが、何か関係してくるか。

（生涯学習課）民間活力導入可能性調査は、民間事業者の意向を踏まえて、参入意欲があるかどうかや、事業内容を提案いただいたり、事業範囲についてどの部分まで民間で可能か調査したりするほか、市で行うよりも民間で行う方が良いのかという財政負担の軽減効果等を算定する調査である。

大規模事業評価は事業自体の妥当性を判断するもので、簡単に言うと、この事業にはこれだけの費用がかかるが、その費用をかけてまで実施する事業なのか、その妥当性の判断を受けるものである。

（高柳副会長）この淵野辺の事業においては、図書館も凄く重要な関わりをしてくると思うのだが、この事業評価の中では図書館はどの様に、どの様な部分で関わってくるのか。図書館からお答えいただきたい。

（事務局）　大規模事業評価は、生涯学習課から今説明があったとおり、どれくらいの規模のものを建てて、費用がこれだけかかってという点が妥当かということが焦点となる。そういったものがないと計算ができないわけで、ということはこの評価までに、図書館の規模がこれだけ必要だとか、これだけ場所を取りますよということを決めなければいけない。その中では、先ほどから何回かこの淵野辺のビジョンの中でも出てきている中央図書館機能が関係してきて、今までも図書館協議会には何回かお示ししているところではあるが、どれくらいの規模が必要だときちんと決め、それを更にブラッシュアップして精度を高くしていかないと、その後の計画の中でなかなか反映できないという状況が出てくると思うので、そういった部分をきちんと定めていくことが図書館としての関わりと認識している。

（金子委員）毎回毎回聞いて申し訳ないが、ホールについては、音響設備は基礎的なものとなっている。これからパブリックコメントで意見を聞くと言えども、ビジョンに書かれている以上は、もう意見はとおらない、もう確定事項ということか。

（生涯学習課）これからパブリックコメントを実施するので、この内容が決定事項ではないが、ベースとなる考え方ではある。

（金子委員）意見を書いてもおそらく無駄な感じか。

（事務局）　その様な意見があったという記録は必ず残り、それがどこかに繋がることもあり得るので、よろしければパブリックコメントで意見を提出いただきたい。

（金子委員）承知した。

（佐々木委員）今まではハードの話だったかと思うが、図書館の運営に民間を入れるということは想定しているか。

（事務局）　現在の図書館の運営は、直営と業務委託という形で、窓口業務などは委託をしている。今後については、特に中央図書館としての機能を持たせるのであれば、図書館行政としての根幹の部分となるので、丸ごと指定管理

でということは考えず、できれば直営と一部委託という現状の形としたい。なお、建物の管理は複合施設となることで違ってくるかと思うので、図書館サービスは直営ということで考えている。

（大谷会長）今の質問については、図書館としてはそう考えているという話かと思う。

（事務局）　そうである。

（大谷会長）図書館の運営をどう考えるかという点は、もし必要であれば、協議会としても意見を出した方が良いと思う。また、大規模事業評価を受けるに当たって、中央図書館機能を入れるということ自体は認められているかと思うが、ではそれは具体的に何をやる話で、それをやるためにどういうリソースが必要なのかということに関しては見えていない。市民検討会では、私も有識者委員の立場で一応中央図書館の件に関しては多少なりとも言ったのだが、あくまで、現状は中央図書館機能を加えましょうという状態である。この中央図書館機能を本当にきちんとするには、例えば、今ロケーションの部分で車での搬入をできるようにしましょうといった配慮はしていただいてるが、では何台で回すとか、どの様にやっていくのとか、そういったものをある程度私たちというか図書館側として考えて出していき、それが本当に見合うものかどうかというのを、大規模事業評価として見ていただいて、図書館はこの部分は最低確保したいとか、あるいはこの提案でこのぐらい費用はかかるけど、その分のメリットはあるんじゃないかとか、そういう話だと思う。

そこで、そういった情報について、生涯学習課というか、まちづくり事業は複数の部署で行っているが、このまちづくり事業全体に対して、やはり出した方が良いのか。

（生涯学習課）そういった情報がないと、正しい大規模事業評価に繋がらない。評価に向けては、生涯学習課では図書館だけではなく、公民館等、複合施設全体の取りまとめを行っていくが、図書館の中身については、例えば、図書館協議会等において色々検討していただけると、この先の事業進捗に繋がると思う。

（大谷会長）中央図書館機能は、辛うじてこれは必要ですということは市民検討会の市民の皆様にも了解いただけたところで、それはそれでありがたかったのだが、具体的なディテールについて図書館業務に何も関わっていない市民の方にそれを議論しろはやはりちょっと難しい話であったかと思うので、中央図書館の部分については、図書館に関わっている協議会とか、あるいは図書館自身から意見を考えていく必要があるのかなと、話を聞いていて思った次第である。

（大谷会長）では、生涯学習課にはわざわざお越しいただいたが、ここで退席いただく。

（生涯学習課）ぜひパブリックコメントへの皆様の参加をお願いしたい。

（事務局）　説明会も、すぐそこのプロミティふちのべでも開催するので、お越しいただければと思う。

・生涯学習課退席

（大谷会長）改めてお話を伺い、今、最後の方で少し言ったのだが、やはり我々の方からも色々なものを出していかないと、せっかく認めていただいたのに、大規模事業評価とか色々他の意見の中で埋没したりして、現実には、ちょっとこれは中央図書館の役割は厳しいのではないかみたいになる可能性は、かなりあると言わざるを得ないのかなと思っている。やはりどうしても、色々なところから色々な意見が上がってくるので、図書館として、せっかく中央図書館機能を搭載する、用意するということを認めていただいてる中で、じゃあ中央図書館とはどういうもので、何をどうするのかっていうのを、図書館としても特に業務の具体的なレベルで議論していかなければと、今話を伺っていて思った。

ただし、一方でなかなか会議開催の密度を上げられるかというと微妙な部分もあるので、この辺に関しては少し図書館側と確認を取って、ある程度具体的な話を凝縮してできると同時に、この協議会の皆さんの総意としてきちんと議論して上げていけるような形にできたら良いと思っている。何かそういう形で出していき、場合によっては図書館の実務的なものと照らし合わせて、そういうすり合わせをしながら図書館としてはこうですという意見に繋がるように出していくことを考えても良いかなと思う。そこで、図書館側にお願いしたいのだが、次回の協議会の時にそういったフレームワークが必要だと思うので、何か提案をいただきたいと思うのだが、委員の皆様もよろしいか。

恐らく、この様な状況で何も言わないと、どんどん図書館のやる、やれる要素がなくなっていくというところは、ご理解いただけてると思う。

だからそういうことがないように、色々声を出していこうということ自体は多分、特にご異議ないかと思うので、そういったものをどう上手く議論して上げていくかという枠組みに関して、少し図書館の方で、協議会としては必要だと思っているという前提を踏まえて、次回協議会に提案いただけたらと思うが、よろしいか。

（事務局）　大谷会長とも相談をしながら、お示ししたいと思う。

（大谷会長）協議会の回数が増えたり時間が延びたりするかもしれないが、ぜひご協力いただければと思う。ここで言っておかないと、10 年 20 年という単位で後悔するという可能性もあるので、よろしくお願いしたい。

（佐々木委員）ちょっと教えていただきたいのだが、市で複数の図書館を持ってる限り、中央図書館機能という機能自体は絶対必要というは分かる。その中で、この淵野辺のまちづくりにおける箱の容積とかの問題であったりで、図書館が狭くなってしまい、ちょっとこれではできないので中央図書館機能を

相模大野図書館に移しますとか、そういうことになったら困るでしょという話の理解で良いか。

（大谷会長）それもそうだし、今回はきちんと入れてもらえているが、例えば中央図書館と言いながら、資料搬送の中心、ハブにならなければいけないのに、ハブとしての資料配送の仕組みが何も考慮されないとか、そうなってしまうと本当に何のための中央図書館だろうっていう話になるので、諸々と話の内容はある。そして、さすがにこのような話としてなった以上、では相模大野でとか、やはり橋本でというのは難しいと思うので、中央図書館機能という話をいただいた以上は、それをやるにはこれだけこういう要素が必要ですよとか、そういうものをきちんと出していくべき。どうしても図書館は、経常費がかかる社会教育施設なので、建ててもお金がかかるし、その運営もお金がかかり、いわゆる箱ものの中ではかなりお金がかかるタイプのものなので、必要な要素をきちんと出していかないと、削った方が良いよねという話になりがちである。だからこそ、私達協議会の意見として、図書館を経由して市に上げていくというイメージである。

（佐々木委員）懸念としては、今できてることが、むしろできなくなったらどうするのかということか。

（大谷会長）そうであり、ただ一方で、実はこの図書館が中央図書館だというのは、意識としては昔からあったのかと思うのだが、組織上としてはようやくそうしようかなという話になってきたぐらいで、その辺りは実はずっと曖昧だったと理解しているが、間違いないか。

（事務局）　中央図書館が必要だということは、昔から、もう10年以上前の計画から出ており、ただそれを実現させるためには、やはり設備も多少必要になってくる。実は中央図書館というのは、皆さんがイメージするような規模が大きいとかそういうことではなくて、中央図書館そのものの機能というのは、コンピューターに例えるとCPUみたいなもので、全体的な効率的なサービスを実施するためのコントロールをしていくものである。例えば、選書の基準を作って効率的に買えば、バラバラで買うよりも、当然市民の方の利用にもっと寄与できるとか、あるいは研修とか人材の育成を中央図書館で行うことによって、サービスの提供がもっと高度になるとか、そういう内部管理的な要素が多いので、なかなか外には見えにくいところではあるのだが、きちんとそうしたことをやることによって、間接的に市民サービスの向上に繋がると考えている。そして、そのための設備として多少、大谷会長が仰ったような配送所であったり、あるいは図書館というのは市のデータベースなので、書庫であったりというようなものが関わってくる。実際にはソフトで勝負になるのだが、そういった設備については確保し、中央図書館として、機能として持っていきたいというのが図書館としての考えである。

（佐々木委員）承知した。では少し視点を変えると、例えば先ほど大和市のシリウスが例として出ていたが、他の市町村の人がわざわざ相模原の図書館に行く、行きたいと感じるようなものを作る、図書館で集客できるみたいなことは考えているか。それとも、そこまでは想定はしていないか。

（事務局）　図書館で集客してるところの多くは、いわゆる商業施設等との合築であったり、例えば須賀川市や塩尻市のように人が集まる施設との合築で、駅前に建ててという、特に地方都市はその様な建て方が多いのだが、淵野辺の新施設では商業施設等は想定には入っていない。また、よその市が来る、来たくなるというよりも、本市の市民の方たちが来たくなる施設ということが一番大切だと思っており、別にもの珍しい建物を造って、よその市に来てもらうよりも、本事業のビジョンにもあるように、市民の方が気軽に立ち寄って、1 日滞在できて、楽しんでもらう、役に立ってもらうというのが、やはり目指していく姿かなと思っている。

（高井委員）相模原市は図書館が 3 館あり、横 1 線だったものについて、市立図書館に中央図書館機能を持たせましょうということは分かる。ただ、機能というところでやはりある程度専門家の人でないと、私たちにはよく分からない。また、箱物をまとめる、公民館やまちづくりセンターとかみんなこうまとめた施設を一つ建てて、その中に、図書館も入れてってなると、図書館の規模が小さくなるのではないかという心配があるが、その点は大丈夫か。

（事務局）　機能については図書館計画にも載っているが、基本的に、この淵野辺の図書館を一つとするとその中に二つの機能を持たせるイメージである。一つ目は、いわゆる地域図書館として、この部分は相模大野、橋本でも今行っている市民サービスの部分で、地域図書館として同じようなサービスを行っていく。そして二つ目として、そこに中央図書館の部分を上乗せするイメージである。なお、淵野辺の新施設における図書館での市民サービスの部分については、市民検討会の皆様に色々なアイデアをたくさん出していただいてるので、できるだけそれを実現させていく形となる。ビジョンにも書いてあるのだが、滞在しやすいとか、書架の配置を工夫して、これはまだ確定では全くないが、例えば児童館の前に児童書を置いたりとか、そんなイメージである。そうすると、用のある所に行った際に普段目に留まらないような本に触れ、そこでこんな本があるんだという本との出会いが生まれるとか、そういった点も含めて考えていくべきかなと思っており、市民検討会からもその様に意見をいただいてるので、実現させていくことが大切になってくると考えている。

（高井委員）中央図書館機能は、ざっくり言うと総取締みたいな感じか。私のところは公民館図書室になるが、やはり本自体の数や、新しい本が入ってくることも限られるので、中央図書館ができるとそういった部分もほぼほぼ網羅

できるようになるのか。

（事務局）　そこをどうコントロールするかというのが、中央図書館の腕の見せどころとなる。逆にネットワークはできているので、どうやって中央図書館が、例えば津久井中央公民館の図書室を支援できるのかという話かと思う。

（高井委員）今よりも充実した支援がされるということか。

（事務局）　そのための中央図書館機能だと考えている。

（大谷会長）やはり資料の物流とかは、これは中央図書館が頑張らないと、その運行させるシステムとかは中央図書館としてきちんと用意しておかないと、やりたくてもやれない。だから、そういうことをきちんと伝えて、そういった施設設備は絶対譲れない部分と打ち出す必要がある。資料の出納のための配送をこの周期で回すからとなった時に、建物が建つ場所にもやはり制約が生まれてくる。車のそういった流れはそれほど気にしなくて大丈夫ですというのと、いやそれは絶対にお願いしますというのでは、そもそもどこに建てるか変わってくる。実は結構市民検討会では、その点は配慮していただいた形で、配置の議論はかなり進んでいた。せっかくそうしていただいてるので、後はそれを拾った上で、さらに本当に実効性のある、そういう様々なところ、公民館図書室等へのサポート体制をどう作って、どう回していこうかという時に、どう回していこうかは市民検討会の皆様の検討の範囲ではない。

どちらもこれは図書館の話なので、そういったことを考えていこうということである。だから、協議会としては要望的なものでも良いと思う。こういうことをきちんとできる中央図書館機能じゃなきゃ困りますっていう言い方で良いと思う。ただし、結局この後事業が段々と、どんどん具体的な形になってくるので、ある程度具体的なものの裏付けも伴って示していかないと、なかなか拾ってもらえない可能性もあるというところで、そういう点では少し、その細かいテクニカルなことを詰めないといけないということになると思っている。

（竹内委員）今自分が感じているのは、中央図書館のその機能っていうところの中で、申し訳ないが、私自身がその中央図書館の機能っていうこと自体がよく分からない。もしかしたら、市民の皆さんも図書館と中央図書館とは何が違うのっていうところから、分からない方も大勢いらっしゃるんだろうなという風に思っている。先ほど生涯学習課の方の説明の中で、資料の 11 ページの図書館機能ということで、アのところに中央図書館機能の確立・充実とあるが、申し訳ないが、例えば、図書館ネットワークの中心となりの中心となるということはどういうことが行われるのか。全市的なサービスの企画・推進とは、いったいどの様なことを考えていているのか、骨格なんだからこれから考えるということかもしれないが、でもある程度のものがないと、何をどう考えたら良いのか分からない。そういう具体的なものと

か、専門的なサービスの提供とは一体何なのか、他の図書館及び公民館図書室等への支援は今お話の中にあったが、では具体的に本を回していくのであれば、何ヶ月に1回ずつ、でもそのためには車なども必要になってくるし、と色々出てくるし、専門的な人材とは一体何なのかとか、本当に言葉一つ一つをもう少し具体的に、私たちがきちんと、このせめて協議会の中で理解ができていないと、質問された時にも答えられない。先ほど会長が仰ったように、私たちは図書館協議会委員としてここにいるので、この中央図書館機能というのはこういうことですということをもう少し具体的にしていった方が、今後、街づくり全体を考えたときに、だから図書館はもっとこういうところが必要ですっていう風に言えるかなと思った。

（大谷会長）正に、そういったものを整理して伝えるということである。逆に最終的な決定は、図書館専門家ではない人たちが関わってくるので、正に今竹内委員が仰ったようなことをきちんと行って、最終的な市の政策決定の中で、過不足なく図書館として必要なものは何かということを理解していただいて、それを意思決定していただくということだと思う。ただし、最初は恐らくかなり細かい話が多くなってしまう。例えば物流システムで他の都市はどんなことをやってるということは、普通の市民の方はご存知ないと思うが、実は図書館によっては、資料費を削られても物流を選択すると言ってる図書館もある。県立図書館ではとても有名な鳥取県立図書館は、資料費とこの物流配送システムの二択になったら資料費を捨てると言っている。鳥取という東西に100キロ以上広がってる所で、県立図書館は2日で届けられると言っているが、本当は午前11時までに言ってくれれば次の日には届けられるが、相手の図書館のこともあって、一応2日という言い方をしてますということである。これは、以前見学に行った際に、現在は館長をされてる方にお話しを聞いており、また公式な場での講演内容としても、そう言っている。なお、鳥取県立図書館は資料費は凄くある図書館で、凄く充実している図書館として、図書館業界では知らない人はいない。だけどそのぐらいに、そういう風に資料の物流に力を入れてるということは多分普通の方々はご存知ないと思う。今後整理していく中では、結構出だしの部分、やはりこういう事情とかなんかは少しテクニカルなことが多いので、そういった部分は図書館の人と、ある程度この協議会の中にいる学識者を中心に少しまとめて論点整理をして、その上で、一般の市民となる方々から見てもこれはそういうことなんですねと分かるように説明していければ、多分、その政策の意思決定者の人にも伝わると思う。この方法が、一番効率的できちんとした説明の方法だと思われる。そういうことをやって伝えることが、図書館を良くすることに繋がるんじゃないかと。

（金子委員）鳥取は交通の便が良くなくて、確か高速道路もあまり通っていないかと思うのだが、配送を取るっていうその強い意思は凄い。

（大谷会長）とにかく県内のどこにでも届けるとの意思がある。
（金子委員）凄いと思う。
（大谷会長）ちなみに、普通は公立学校にしか資料は届けないが、鳥取県立図書館は私立学校にも届けている。人口最小県でそんな狭い了見でやってる場合じゃないっていうのが、この答えだった。この様な事例はほぼ見たことないが、でも逆にそのぐらい、もの凄い決意を持ってお金を投じてやっているということだろう。
（金子委員）そのぐらいの強い意志、何らかの意志というのが、中央図書館ということになると必要になるということか。
（大谷会長）例えば、小さな図書室をサポートするためにはどういう資料を追加で持たなければいけないとか、それをどのぐらいの頻度で届けるためにはこういう仕組みを作らなきどうしょうもないんだとか、やはりそういう話になると思う。特に緑区界隈は結構サポートを密にしないといけないと感じており、緑区は橋本行ってくださいではあまりに広いとか、この種の話は、やはり重要となる。
（高井委員）中央図書館機能を持つことで、よりこう充実した形になり、確かに緑区で奥の方までカバーできれば良い。
（大谷会長）サポートを充実させるための中央図書館で、もちろんそれが本当に緑区の方々の全てのニーズに答えられるかどうかの問題は、一方であると思う。でも、とにかく中央図書館を持って、きちんとやるんだってことを示して、そのためにはこうですって、これが必要ですということを説明していくのが、まずは私達として最初にやるべきことではないかなと思う。
（大谷会長）ではこの件に関しては次回、図書館側からどういう感じで検討していくかという枠組みを提案していただくことになったので、そこでまた改めて、仕組みや何をそこでは最終的な目標とするのかとか、検討したいと思う。

２　議題
（１）図書館事業評価について
資料２－１、２－２、２－３に基づき、事務局から説明を行った。

（大谷会長）委員の皆さんの意見をお聞きする前に一応確認する。元々あった話は、評価サイクルをできれば、協議会の評価も含めて８月ぐらいになるかならないかというお話があり、いやそれは無理ですという協議会の意見を出して、改めてよく調整していただいたものであるという理解でよろしいか。
（事務局）　そうであるが、今調整を図ってる段階であり、庁内的に最終的な調整がついたという案ではない。協議会からのご意見を踏まえての、今の事務局案としての形である。
（大谷会長）そして同時に、このボリュームは結構大変じゃないかという話も出て、

構成案と、各協議会委員に対してどういうことを評価していただくかということに関して改めて提案をいただいたということである。ということで、前回の協議会の内容を継続している。例年のボリュームで当初示されたが、これはやって大変ですよねという意見も多くて、構成も変えようということになった。そもそもこのサイクルも、当初図書館が示してきたのは余りにきついけど、でもこのボリュームも少し改善してやっていこうということもあって、色々含めて少し変えましょうとなった結果というのが今回の事務局の提案かと思う。

（高井委員）内部評価は、これから送られてくるということか。それを見て、2 月中に提出か。時間が足らないのではと感じる。

（事務局）　もう少し、後ろにずれるかと思う。気づいたことや、あるいは今、高井委員が公民館としての立場で見た上でのご意見とか、それぞれの皆さんの立場で見たときに、この評価ってどうなのかとか、こういうことが欠けているんじゃないかとか、あるいはこういうことは良くやってるねとか、そういうことをご記入いただければ有難い。

（金子委員）ボリュームの抑制をしていただくのは凄く助かるのだが、一方で今までのものは凄い読むのが大変だったと思うが、あれを抑制できるものなのか。どういったところを抑制しているのか。

（大谷会長）今回の資料２－２のとおりで、総括的な要素以外の評価はもう大分できているということで、この資料を用意していただいていると思う。

（金子委員）これが一応完成イメージということか。

（大谷委員）各館レベルの話の自己評価を見て、例えば、いやちょっとこれはどうなんですか、違うんじゃないですかとかっていう言い方でも良いし、また、ある図書館はこうだと例を挙げても良いと思う。そして、それぞれの図書館の内容を踏まえて、市の図書館全体としてはこうですというのを、今のところ 13 ページ目、14 ページ目に書こうとしている。それを見て、個別の話ではこう言ってるのに、全体がこの内容だと矛盾してませんかとか、そういう感じで意見を言っていけば良いかと思う。今まではちょっとボリュームがありすぎて、我々もプレッシャーになって、全ての項目に目を通して、全ての項目にきっちり意見を書かないといけないのではないかということでやってきた。今回の資料２－３では、もちろん、各委員の中には色々述べたいことがあるということは当然あるかと思うので、その分量に関しての制約は一切ないが、今まではそれぞれの項目全部に記入欄が用意されていて、書いてくださいという感じだったものが、今回は比較的自分の中で、特に気になった項目はこれで、理由はこうですという風に書いてはいかがでしょうかという提案になっている。まずぱっと見て違和感を感じたことや、感心したこと、疑問に思ったことを前面に立てて、その部分を中心に書いていただければ良く、いちいち全部を拾う必要はないという

形になっているかと思う。

（遠藤委員）内部評価をして、外部評価をして、意見がまとまった結果何かを提案する、そしてその提案を受けた図書館が次年度にこうやりますといって何かアクションを起こす、その様な流れの中で、その結果というのは何か評価されるのか。

（大谷会長）当然その点は我々も見ていくということになる。改善が必要な内容があり、我々の協議会評価として、改善内容を確定させて提案したとする。それに対して特に説明責任を果たさずに、改善が見られないとなったら、その場合は我々としてはさらに厳しい評価となり、何らかの改善措置を取るべきだという強い口調でそこは評価していくことになると思う。だから、今後は少しそういう時系列的なところも、前といつまで経っても変わってないんじゃないですかという書き方も許容されると思う。

（事務局）　遠慮なくご記入いただければと思う。なぜ登録率が低いんだとか。

（大谷会長）一方で、私は評価というのは説明責任をある程度果たせば良いというと面もあると思っているので、図書館からの事情とか、要するにこういう意図を持ってやろうとしたけど、当初予想されなかった要因で今年はこれはできなかったっていう形の説明がある程度されていれば、それはそれで良いと思う。そして、その説明を毎年続けているようなら、いやそれは改善してくださいという評価をすれば良いので、あまり毎年毎年、お互いに完璧にこうやれてます、完璧にこうやってくださいっていう非現実的な押し付け合いよりは、良いと思う。物によっては１年間でびしっと言わないといけない部分も当然あるが、それは私たちの、それぞれの評価基準で指摘していく形、スタンスでやっていければ良い。あまりに建前が横行して、図書館は何のミスもありませんみたいな感じにしないといけないという意識でやると､結局は本音の部分で行政としてのサービスの改善がないので、そういうスタンスで、きちんとなってるかどうかというやり取り、キャッチボールができていれば良いのかなと私は思っている。

（金子委員）この４段階評価は良い。

（事務局）　こちらについては次回の協議会で、皆さんのご意見、外部評価を集めての総評の時に、皆さんで協議をして決めていただくということになる。

（金子委員）何か満遍なくっていう感じではなくなるので、これはすごいはっきりしていて良いと思う。

（佐々木委員）各委員から個別に意見を提出する際、その対象となるのは各委員がもらう内部評価のみとなるか。市民として図書館を利用してるので、そこで気づいた点というか、そういう視点も盛り込んでも良いのか。

（事務局）　それはもう、ぜひ記載していただいて構わない。また、補助的に統計指標も付いているので、それをご覧いただいて感じることがあれば、そういった内容を記入いただいても構わない。

（佐々木委員）総合的にということで承知した。

（大谷会長）せっかく協議会は色々な立場の方々がいらっしゃるので、やはりそれぞれの観点から見てどうかというのが大事だと思う。それが第三者の協議会に最終的な評価を委ねていることの意味だと思うので、ぜひそれぞれの立場でそれぞれの関心のあるところを特に注目してほしい。例えば学校関係のお２人だったら、学校との連携という観点で盛り込んでいただけたらと思う。

（高井委員）意見はこの用紙でこの枠内で提出か。

（大谷会長）実際はファイルで配布されるので、この中に別に全部収める必要はない。

（事務局）　溢れても構わない。

（大谷会長）前は全部の項目に記入欄が用意されていて、何か埋めないといけないというプレッシャーが凄くあった。一方で、実際、協議会委員の皆さんはやはり意識が高いので、基本こう言ったからといっても一つだけ書いて終わりということはない。他の協議会での経験から言っても、やはり皆さん色々書かれる。ただ、前はあまりにも全ての項目にということで、もう綿密に委員側は何か一大著作を書くかのようなレベルだった。

（高井委員）収まらなくても良いということで承知した。

（事務局）　別紙でも構わない。

（大谷会長）では書面参加の小山委員から書面でご意見いただいているので、その内容を紹介して、確認を取って、このスタイルで良いかどうか結論として出していきたいと思う。小山委員の意見について、事務局から読み上げていただきたい。

（事務局）　まず１点目、図書館からの段階評価で成果指標を重視することと、4 段階評価とする、ただし、段階評価の意味するところや言い回しは検討するという説明に対して、小山委員からは、特に異存はないが、成果指標は数値による表現が主なので、評価にあたっては工夫が必要であると思うとの意見をいただいている。

2 点目、図書館からの成果指標を重視するという評価と、サイクル見直しも踏まえ、現在の構成でそのままでボリュームを減らすのではなく、構成案も見直すという説明に対して、小山委員からは、構成案に対して異存はない、先ほども記したとおり数値の取り扱いは慎重である必要があると思う。その数値の意味するところを背景も含め、丁寧に見、解釈し説明することが大切というご意見をいただいている。

3 点目、図書館からの取り組みの記載について、ボリューム抑制という観点から、年度のポイントとなる部分に焦点当て記載をするとの説明に対して、小山委員からは、この点は賛成で、基本計画に照らしながら、当該年度には何に重点を置き、何をどこまで達成できたのかを丁寧に、かつ明確に説明いただけたらと思う。加えて、評価指標には現れない、評価指標

だけでは表現しきれないことも、内部評価に反映させる必要があると考えるとのご意見をいただいている。また、その際、協議会の場も上手に活用してもよいのではないかと思うとのこと。協議会の議題として進行中の計画や活動を報告し、委員から意見等を頂戴し、それも参考にしながら活動を進めた成果を、協議会からの意見も含め内部評価に取り入れたらどうかと考えたとのことで、いずれしても、数値だけでは表現できないことを上手に評価に盛り込むことができたら良いというご意見をいただいている。

（大谷会長）この意見は1月15日ということなので、今回の会議資料を作成する前ということか。

（事務局）　大体同じであるが、若干小山委員への送付の方が早い。

（大谷会長）数値の意味するところを背景を含め丁寧に見、解釈し説明といった点は、特に気をつけないといけないのが多分蔵書新鮮度とか、我々は業界用語として使いがちなのだが、これに何の意味があるんだとか、そういった説明、数字の指標として選んだことに何の意味があるのかという点について、注などで、説明を図書館の方できちんと書いていただくようにお願いしたい。この数字は何か上がったり下がったりしてるが、それにどんな意味があるとか、そもそもこれって何なのっていうところで、やはり普通の市民の方は、いきなりそんな数字を出されても分からない。読者は市民の方だと思うので、その辺りに関してはご配慮いただきたいと思う。ボリューム抑制にはならない部分であるが、そこは大事なサービスとして必要な作業だと思うので、私も小山委員と同感である。また、ボリュームを抑制しながらきちんと上手く丁寧に説明していくかという点に関しては、今回は、試行の部分も必要で、今回出していただいたものを見て、いやここでの説明はさすがにもう少しお願いしますとか、ちょっと省略しすぎて分かりませんとか、小山委員の意見も取り入れながら、段々と何年かかけて良くしていければという感じで考えている。いきなり最初からこれが完成形ですというのはさすがに難しいと思うので、ぜひ小山委員の意見も事務局としてはサンプルとしつつ、作成いただきたいと思う。

（大谷会長）では協議会として、この進め方で良いのかということをオーソライズしないと、次の内部的な評価を完成させてという流れに進めないと思うので、この場で確認したいと思う。

まず、基本的な考え方として、資料2－1に挙げたような見直しの項目である。具体的な例示として出された資料の2-2や2-3を見たところ、この見直しのポイントの内容は大体実現しているかと思うが、この形で進めてよろしいか。

（各委員）異議なし。

（大谷会長）では、当協議会としては、今年の外部評価はこのスタイルで進めるということで了解が取れたので、この手順で進めていただきたいと思う。なお、

評価サイクルの部分は調整が難航しているということで、もう１回協議会の記録として残しておいた方が良いと思う。前回は、もっと早く夏ぐらいまでに全てというのが示されたサイクルではあったが、ここに出てくるアンケートというのは、いわゆる利用者満足度調査で、利用者がどれだけ満足ですか不満ですかというアンケート調査をやっている。そして、これは職員の方々が集計分析をされている。そうすると、これををもっと短く早くというのは、私はその他の業務との兼ね合いも考えれば現実的ではないと思う。やるのであれば業者への委託、お金を出していただいて、業者に特急料金を払って集計してもらうということをしない限り、調査して取りまとめてというのは厳しいと思う。だから私はこの６ページの評価サイクル見直し案あたりで、何とか収めていただけないかという思いである。そうしないと、何かどこかで現実的ではない対応を図書館又は私たちが余儀なくされると思っている。このアンケートは、実際にはそれぞれのどういうところが不満ですかとか全部聞いて、その集計を取ってきて、それぞれ例えばこの図書館では、この図書館の平均値は幾つですなど、全部やっていると理解しているが。

（事務局）そのとおり。

（大谷会長）それを職員が日常業務の間に行っている。ちょっと数字の解釈まで含めると、やはりこのぐらいの期間は必要かなと私は思うのだが、現場的にはいかがか。やれと言われればやるしかないということは、一方であるとは思うのだが。

（事務局）　実際に分析という作業があるので、そういう点を考えれば、これぐらいの期間で少し余裕を持たせていただけると、内容が荒くならない、いわゆるブラッシュアップ、精査した分析や評価というのものができるんじゃないかと思う。

（大谷会長）ただ平均値が幾つから幾つに、何ポイントから何ポイントに変化しましたよりは、やっぱり個票の中を見ながら、こういうパターンの感じの利用者の方はこういうご意見の方が多いんじゃないのかなとか、やはり意見交換してそれを改善に役立てていただかないといけない。ただ、その集計の数字だけを急いで出してそれだけで評価することは、むしろこういった利用者の方々の意見をアンケートする意味が私はなくなると思う。そう考えるとこのぐらいの期間を見たこのスケジュールでいかがかということで、協議会としてそう思いますよということで、意見として残しておきたいがよろしいか。

（佐々木委員）アンケートは紙で実施しているのか。

（事務局）　紙と WEB と両方実施している。

（佐々木委員）ある程度電子データになってるものもあるが、紙があるのでそれをまとめないといけないということか。

（事務局）　そうである。特に高齢者の方はWEBは扱い辛いので、やはり紙でいただくことが多くなっている。

（大谷会長）なので入力は手入力ということになる。

（遠藤委員）このアンケートは、利用者アンケートということか。

（事務局）　利用者アンケートである。

（遠藤委員）では図書館を使ってる人が対象ということで、使ってない人のアンケートではないということか。

（事務局）　その点に関しては何年かに１回、世論調査の中で質問を設定し、意見を伺ったりしている。特に計画を作るときは、いわゆる全市民対象のアンケートを行っている。

（高柳副会長）確かに、利用していない人の意見が聞けていないというところで、例えばパブリックコメントの時に図書館利用してますかという設問を設けたりすれば、普段図書館を利用していない方の意見を聞けるチャンスかなと思う。

（事務局）　そういう提言をいただいて、それを我々の方で実現させていくというのが、一番いいやり方だと思う。そういう意見も書いていただければと思う。

（大谷会長）妥協点は必要かと思う。特に大きな基本計画とかを考える時には、やはり図書館を使っていない方のニーズもどう拾い上げるかということはきちんと考えないといけない部分ではある。ただ、評価の面では、毎年図書館の業務範囲で行うという部分で見れば、どうしても利用者へのアンケートになってしまうことはやむを得ないかなと感じる。

では、評価に関してはこのぐらいの期間を確保してやはり行わないと、現実的な評価プロセスにはならないということを協議会としても確認したということで、何かあればそのように教育委員会の方にも報告していただきたい。それでは、この形で進めていただくということで、事務局も色々事情があるかと思うが、やはり私たちも読んでそれなりに書くというのは時間がかかるので、早めに進めるようお願いしたい。

３　その他

（竹内委員）評価に関して気付いた点で、4 ページの一番下のところで、読書は好きですかという質問に、当てはまる、やや当てはまると回答した小中学生の割合という項目があるのだが、この小中学生というのは、誰を対象にしているのか。学校なんかだと何年生というのが分かるのだが、図書館がアンケートを取った小中学生の対象というのは誰か。

（事務局）　学校教育課の方でアンケートを取っており、その項目の情報をいただいている。

（竹内委員）では市内の小中学生全体ということになる。承知した。

以　上

相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　　考	出欠席
1	大谷　康晴	青山学院大学コミュニティ人間科学部教授	会　長	出　席
2	高柳　眞木子	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会副会長	副会長	出　席
3	渡部　賢一	相模原市立相原中学校長		出　席
4	竹内　啓子	相模原市立相原小学校長		出　席
5	髙井　登志子	相模原市公民館連絡協議会副会長		出　席
6	金子　友枝	相模原市文化協会副会長		出　席
7	宮原　志津子	相模女子大学学芸学部教授		欠　席
8	小山　憲司	中央大学文学部教授		書面による出席
9	遠藤　弘一	公募		出　席
10	佐々木　彩	公募		出　席